

# COLUMN

鎌倉の猫事情 第六十六話

グーニーの生活は、完全に病気に支配されていました。週に一度ゲージに入れられ、獣医さんのもとへ走らされ、むりやり口を開けさせられ、お尻に体温計を突っ込まれ、注射を2本打たれました。それでどうにか、暮らしを保っていました。げっそりとして、毛並みはひと頃の艶がなくなり、しらっ茶けたようになっていましたが、病院に行った直後は体調も良くなるらしく、私の布団に入って小さくゴロゴロと咽喉を鳴らすこともありました。とは言え、猫には言葉が通じませんから、毎週のようにゲージに閉じ込められ、冷たい白い部屋へ連れて行かれ、ありとあらゆる不快なことをされる事には納得いかなかったはず。私には、解らなくとも、これは必要な治療なんだということを言い聞かせることしか出来ませんでした。と言っても、先生はただ、毎回体重をチェックし、口の中を見て、首を振りながら、注射を打って下さいますが、それ以上は何も言いません。そんな生活が数ヶ月も続いていたのです。

私が留守の時の為に、ミルクホールのスタッフにもグーニーが食べられなくなった時の流動食の作り方も教えて、緊急時にも備えていました。そんな日々がただただ続ただけで一向に病状が良くなる気配もありません。追い詰められた気持ちになった私は、疑問をいだき始めていました。本当は他に治療法もあるんじゃないのかな？ もっと何か出来ることもあるんじゃないのかな？ 不安と疑問が心の片隅に芽生え始めた頃に、その心の隙間を突かれたような事が起きました。

よりもよって、獣医さんがお休みの日のことです。まだ前回の注射から日が浅いというのに、あの狂ったような発作が起きたのです。苦しみもがくありさまは今まで見たこともないほど酷く、私は、必死に押さえてゲージに押し込み、グーニーが小さい頃お世話になった獣医さんの所へ向かいました。そこは少し遠方だったため、今の先生の所に変ったのですが、カルテは残っているはず。苦しむグーニーを見て先生を始め沢山の助手の方たちが集まってきばきと手当てに掛かって下さいましたが、グーニーの方は、見知らぬ人たちに囲まれてまたもや痛いのも忘れ、猛然と反抗します。先生は私の話をかいつまんで聞くと、すぐに「ちよっと鎮静剤を打ちましょう」ということになり、グーニーは完全に眠らされました。その後、先生は緊急にできる限りの精密検査を行いました。全身のレントゲンも撮られ、私はグーニーの骨はこんな風になっているのかと、感心もしました。びっくりするほど大きな注射も打たれました。そして、ぐったりと意識のないグーニーを前に、先生が難しい表情でカルテを手に、病状を説明し始めました。

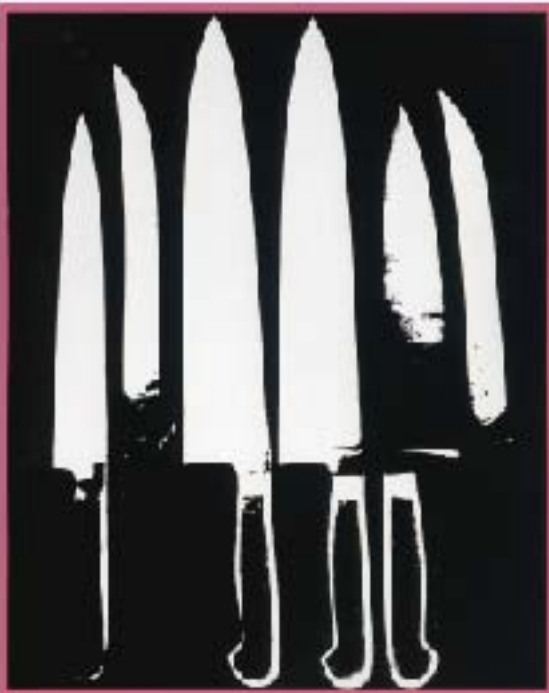
それは、私と、今は静かに眠るグーニーの行く末に、さらに黒く大きな塊をもたらす内容のものでした。

——to be continued



## Time

桜前線追いかけて・・



とうに春は来ていたんだ。そんな事はわかっていた。外は桜の花ももう終わる頃だろう。そんなことぐらいわかるさ。この部屋の中に居てもね。今は冷たい雨が降っている。雨で散り始めたピンク色の花びらが、風に煽られて窓ガラスにこびり付いている。風が吹くたびに花びらがガラス窓を埋めていく。それが朝からずっと続いて、今はもう窓ガラスが一面にピンク色に染まって見える。綺麗だね.....こんな花見も悪くないだろう？

この中に居ると色々なことが見えるんだ。それに色々な事が起きる。さっきも僕のお腹の上を片足の猫が駆け抜けて行ったし、沢山の人がこの部屋に入ってくる。それで、思い思いに話しかけてくるんだ。泣いたり笑ったり、微笑んでみたり、なんだかその様子が可笑しくて、いつものように、茶化してみるんだけど、不思議とそれは誰にも聞こえていないみたいなんだ。こんな風にこの部屋にこもる様になっても随分季節がめぐるような気がするけれど、つい昨日のことだったような気もする。最近はずい前とは様子が違う。周りの時間は目まぐるしく動いていくのに、この中で僕一人だけ止まっている。それで何もかも理解した。泣いている人や、微笑んでいる人のわけを.....でも、近頃はとても気分がいい。ととても穏やかな気持ちだ。ああ、こんな気分のいい春に行くのはどこがいいかな？桜前線を追っかけて北上するのがいいな。皆に絶対退屈しない旅行をさせてやりたい。お土産の美味しい魚もお腹いっぱい食べさせてやりたい。それで僕は、ひと仕事終わったら、ミルクホールへ行ってビール.....おっと禁酒中だった。朝日サイダーを一本注文して、カウンターの隅に座って、曾根さんや、美人の彼女の働くのを見ながら休憩するんだ。時々皆をからかってみたりして... 母乳牧場の話はもうしないよ、あれはここじゃ受けないからね。

そうだな、何の話をしてしようか.....もう、いいか、今では、いつでも自由にここへ来て、座って、皆のことをこうして見ていられるからね.....

時計の針が前にすすむと「時間」になり、後ろにすすむと「思い出」になると言います。時が止まると、なにかもかが折り合って一つになると私は、近頃そう思うのです。

最後の日に、ミルクホールへ来てくれた原本さん、沢山のお土産と、思い出と、そして、何よりこの店を愛して下さって、本当にありがとうございました。いつか、また...



Milk Hall Now

# ANTIQUES .....

ミルクホールでは  
大正・昭和初期の物を中心に 伊万里・古陶磁  
骨董、アンティーク、古い着物等 和洋家具  
毎月色々入荷しています。 古民芸  
伊万里や、古代の発掘品など、 アンティーク  
骨董ファンの方にも楽しんで 頂ける掘り出し物も揃えています。

# LIVE 4/21

毎月第三土曜日の夜は  
ハーフムーンのライブで、  
MILK HALLのBAR TIMEを  
お楽しみください

by HALF MOON

Sat. pm 7:30

HALF MOONの音楽は  
愛と平和を歌います。

琢磨 仁 (Jin Takuma)  
琢磨 啓子 (Keiko Takuma)



# HISTORY

KAMAKURA 場所の記憶 No.13

ミルクホール その5 磯見ワカという人

明治の初めの頃、鎌倉の町に磯見ワカという名の女性が現れました。  
ワカは安政参年に新潟で生まれ、その後当時の東京府荏原郡大井村にあった磯見  
家に養女に來たと記録が戸籍に残っています。22歳の頃だったと思われます。  
そして、その後どういふ訳があったのか、鎌倉の駅前で磯見旅館を始めることになった  
のです。横須賀線がやっと走り始めた頃だったようです。

その当時の英国大使ヒュー・フレイザーの妻メリが、明治23年の鎌倉で見た網漁の  
様子をこう書き残しています。「美しい眺めです——青色の綿布をよじって腰に巻きつ  
けた褐色の男達が海中に立ち、銀色の魚がいっぱい躍る網をのぼしている。その後ろ  
に夕日の海が、前には暮れなずむビロードの海が、子供達の収穫の時です。そして子  
供ばかりでなく、漁に出る男のいない後家も、息子を亡くした老人達も、漁師たちの周りに  
集まり、彼らにくれるものを入れる小さな鉢やかごを差し出すのです。そして市場に出  
されないような小魚などは、すべてこの人達の手に渡ります。——」

また、アメリカ人で日本通で知られるイザベル・シッドモアは、鎌倉の海辺で打ち上げ  
られたわかめを大人も子供も女達もが集まってきて楽しそうに拾い集める様子を見て、  
「——鎌倉の生活は、歓喜と豊潤で成り立っているかのように見え、暗い面などこ  
吹く風といった様子だ」と、記しています。春一番が吹きわかめ拾いに興ずる人々を眺  
めていたのでしょう。このような和やかな風景の鎌倉に、磯見ワカは現れました。

この女性の事はよくはわかりませんが、東京で大使館か外交官の家か、そのような所  
で働いていた人だったと聞いています。幕末に新潟で生まれ、東京で働き、鎌倉に來て  
旅館を始めたのですから、随分と数奇な巡り合わせを以って生きた人だったのでしょう。

——こんな風にミルクホールのルーツを辿り始めて5回目になりました。昨年鎌倉  
のあちこちに残る『場所の記憶』を探して連載しています。ミルクホールも、鎌倉の、この  
裏通りに開店して30年余が過ぎました。ここにも私たちの知らない長い時の記憶があり、  
また世のどんな所にも大いなるいきさつがあるものとしみじみ感じます。

ミルクホールがなぜ今ここにあるのか辿って行くと、そこに関わる色々  
な人々のいきさつが表れてきました。このお話は鎌倉にとどまらず、  
場所も時も、いきさつは広がっています。長い長いお話です。

このお話の中でも、明治、大正、そして今に至る鎌倉の風景を  
ご紹介して行きますが、どうも先の長い話でもありますので、  
次号からは、時折休憩して、鎌倉のあちこちに

『場所の記憶』のお話を挟みながら続けさせて頂こうと思います。



# WANTED

## Information

### ミルクホールタイムス定期購読募集

ミルクホールタイムスは、毎月25日に発行しております。  
定期購読お申し込みの方には、毎月25日郵送いたします。  
詳しくはミルクホール編集部へお問い合わせ下さい。

年間購読料 ¥1500

### ミルクホールタイムス総集編

「鎌倉ミルクホールタイムス」No.001 ~ No.100

ミルクホールにて販売中 一部 ¥1800

ミルクホールタイムス創刊号から100号まで全てを編集した、  
ミルクホールタイムス総集編を昨年、30周年を記念して発行いた  
しました。ミルクホール30年のあれこれが楽しめる本になっています。  
タイムス購読とあわせてご利用頂ければ幸いです。

### アルバイト募集

ウェ이터  
ウェイトレス  
及び バーター

★男女不問・18歳以上  
土日・祝日を含み  
週2~3日

ミルクホール

〒248-0006

鎌倉市小町2-3-8

PHONE 0467-22-1179

FAX 0467-24-9537

e-mail/

info @ milkhall.co.jp





## .....和の小もの

つくり帯  
半衿・帯揚げ  
くるみボタン  
かんざし

**ミルクホールオリジナル 和の小もの**  
大正・昭和初期時代の絹の着物の布地を  
素材に使った和の小もの色々です

### ✂ 半衿・帯揚げ

#### ★★各種半衿 新入荷

半衿は、着物のコーディネートポイントです。半衿を替えてみるだけで、一枚の着物の雰囲気ガラリと変わります。鹿の子絞りや、ちり緬、小紋、矢がすり、銘仙など、昔の着物をほどこいて半衿に仕立てました。大正風にアレンジするなら銘仙など、絞りの半衿は体に心地よく汚れ難いのが特徴です。半衿で、自分流の着こなしをお試し下さい。

半衿 ¥800より  
帯揚げ ¥800より



### ✂ かんざし

★ミルクホール製花のかんざし  
大正・昭和初期の着物の生地で作った可愛い花のかんざしを作りました。  
花のかんざし ¥2500より

★ミルクホール製木のかんざし  
木の棒1本だけで、髪をくるくるまとめてアップにできます。髪の長さや質に合わせて、木の棒の長さをお選び下さい。

木のかんざし ¥1800より

★ミルクホール製くるみボタン  
くるみボタン ¥100より  
くるみボタンのコム ¥1200より

### ♠ 和洋家具

#### ★★大正・昭和初期家具・ケース 新入荷

- ★★昭和初期時計屋用デスク
- ★★大正飾り棚
- ★★昭和初期ガラス入り本箱
- ★昭和初期食卓椅子・籐椅子
- ★昭和30年代本立て各種
- ★★大正時代水屋箒管二段
- ★★明治時代帳場箒管
- ★昭和初期茶棚
- ★昭和初期鏡台
- ★文机・ちゃぶ台

### ♣ 古陶磁

#### ★★各種 新入荷

- ★★大正色絵各種新入荷 小皿・鉢・向付け
- ★★明治銅版小皿新入荷 文明開化絵皿など
- ★★古伊万里豆新皿入荷
- ★★古伊万里なます皿
- ★伊万里7寸皿各種
- ★瀬戸絵小皿
- ★伊万里そば猪口傷直し
- ★初期伊万里陶片
- ★縄文土器欠片
- ★★砥部焼 鯨の染付、昭和20年代猪口、小皿など

### ✂ 帯・つくり帯

#### ★★各種帯 新入荷

★★大正・昭和初期名古屋帯  
★半幅各種

着物は、ついついおっくうになってしまいます。せめて帯は簡単に結びたいもの。つくり帯を持っていると着物が身近になってきます。初心者の方はもちろん、着物に慣れた方にも、お気に入りのつくり帯をお持ちになることをお勧めします。またお買い上げの帯もつくり帯にお仕立て致します。

名古屋帯お仕立て ¥3000より  
二重たいこお仕立て ¥4000より

### ◆ アンティーク

#### ★★大正・昭和初期色ガラス 新入荷

- ★★昭和初期緑葉ビン各種入荷
- ★★明治・大正のガラス各種
- ★★昭和初期色ガラスショットグラス
- ★★昭和初期洗面器スタンド
- ★昔の楽しいケーキ型色々
- ★レプリカシェード ¥5800より



### ✂ 古布

使い方色々、長尺ものから、小さな端布のアラカルトまで、様々な素材、色々なサイズの布を揃えています。

絞り・小紋・銘仙・大島など、古い着物をほどこいて作っています。値段の目安は1メートルで1000円ほどです。希少価値のある柄物は、少し割高です。

端布組み合わせ ¥300より

### ★ 着物・アンティーク古着

#### ★★大正時代着物 新入荷

大正時代の華やかな絵柄の着物多数、入荷しました。銘仙やお召しの大正情緒あふれる着物や羽織です。その他、田舎風の木綿緋の着物、昔の本物の大島紬など買いやすい価格で多数入荷しました。

人気の大島紬 ¥9800より  
他、小紋やちり緬など

久留米緋 ¥7800より  
銘仙着物 ¥3800より  
お召し ¥4800より



👉 珍品 イギリス19世紀  
ストーンウェア(瓦)  
¥7800

### ♥ アクセサリー

春・夏用アクセサリー  
入荷しました。  
季節に合わせて  
着替えてみませんか？  
ハート型指輪・ピアス  
香水瓶ペンダントなど

